

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

## 12

DECEMBER 2004

### CONTENTS

水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会	1,2
クリスマス・プレゼント・コンサート	3
中村真由美・佳代ピアノデュオ延期公演	4
水戸の街に響け! 300人の《第九》	4
アートワースターライトファンタジー	4
最近の公演から & 小部屋	5,6
ネタマ&プチ情報	7
インフォメーション	8



水戸室内管弦楽団第58回定期演奏会から /  
モーツァルト: 交響曲 第40番 ト短調 K.550 演奏風景

## ますます目が離せない! マエストロ小澤 & MCOのモーツァルト 12 / 3(金) 4(土) 5(日)水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会

またもや完売御礼!

小澤征爾音楽顧問が、1年のうちに水戸室内管弦楽団(MCO)の指揮台に2度登場!これは、コンサートホールATM15年の歴史の中でもはじめてのことです。しかも、どちらの演奏会も3日ずつ。さらに、後述するように「子供のための音楽会」もあります。ウィーン国立歌劇場をはじめとする激務をこなす中で、マエストロ小澤がMCOに、水戸芸術館での活動に、いちだんと力を入れていることを、私たちは心強く思います。

それにしても、第60回定期演奏会も第58回定期演奏会同様、3日間の演奏会。1年間で計6回の演奏会となり、正直どこまでチケットが売れるのかわかな不安もあったのですが、そんな不安を吹き飛ばすように、第60回定期演奏会の3日分のチケットも発売数日であとかたもなく売り切れしました。小澤&MCO演奏会への皆様の期待の高さと熱気に、あらためて感謝申し上げます。

モーツァルトに注目

さて、「マエストロ小澤がMCOにいちだんと力を入れている」と書いたのは、演奏会の回数が増えている、という点以外にも感じられることです。ここ数回の小澤&MCOの演奏会プログラムを、どうぞ思い出ししてください。ある作曲家が特に目

立って登場していることに、お気づきいただけたのではないのでしょうか。そう、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトです。

今回を含めて最近3回のマエストロ小澤指揮によるMCO演奏会では、あきらかにモーツァルト作品の比重が高まっています。まず第53回定期演奏会(2003年2月8日、9日、10日)が、オール・モーツァルト・プログラムでした。このときは、セレナータ・ノットウルナ 二長調 K.239、メンバーの潮田益子をヴァイオリン独奏に迎えた ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219『トルコ風』、いまや人気急上昇中のソプラノ、森 麻季をソプラノ独唱に迎えた エクスルターテ・イウピラーテ K.165(158a)、そして 交響曲 第35番 二長調 K.385『ハフナー』の4曲が演奏されています。それから、まだ記憶に新しい第58回定期演奏会(2004年7月7日、8日、9日)では、バルトークの 弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽 のほか2曲がモーツァルト。まず、ロバート・レヴィンによる復元版を用い、工藤重典(フルート)、宮本文昭(オーボエ)、ダーグ・イェンセン(ファゴット)、ラデク・パボラーク(ホルン)ら4人の名手が独奏に顔をそろえ話題となった 協奏交響曲 変ホ長調 K.Anh.9(297b)。もう1曲が、交響曲 第40番 ト短調 K.550。そして今回

の第60回定期演奏会が、歌劇『イドメネオ』K.366より 序曲、協奏交響曲 変ホ長調 K.364(320d)、交響曲 第36番 八長調 K.425『リンツ』の3曲による、オール・モーツァルト・プログラムです。

もちろん、小澤&MCOのコンビがこれまで演奏会でモーツァルトを取り上げなかったというわけでは決してありません。たとえば、記念すべき第1回定期演奏会(1990年4月8日、9日)のオープニングを飾ったのは、モーツァルトの ディヴェルティメント 二長調 K.136(125a)でした。またマエストロ2度目の登場となった第7回定期演奏会(1991年11月12日、13日)はオール・モーツァルト・プログラムで、交響曲 第32番 ト長調 K.318、ピアノのアンダー・シュ・シフを独奏に迎えての ピアノ協奏曲 二短調 K.466、そして今回も取り上げられる 交響曲 第36番 八長調 K.425『リンツ』という内容です。ちなみにこのときはアンコールもモーツァルトで、交響曲 第1番 二長調 K.19 の第1楽章が演奏されました。

しかしその後、小澤&MCOの共演において、モーツァルトの演奏頻度はやや落ちます。以下の表をご覧ください。太字がモーツァルト作品です。



第58回定期演奏会から



写真左から；  
川崎洋介、店村真積

第17回定期演奏会(1994年4月23日、24日、25日):  
交響曲 第32番(再演) ストラヴィンスキー、ベートーヴェン、

第21回定期演奏会(1995年6月9日、10日):  
ビゼー、ラヴェル

第27回定期演奏会(1996年11月1日、2日、3日はサントリーホールでの館外公演):  
ストラヴィンスキー、ラヴェル

第29回定期演奏会(1997年6月7日、8日):  
交響曲 第39番 変ホ長調 K.543、シューベルト

第1回欧州公演および第33回定期演奏会(1998年6月2日～7日、13日、14日):  
シューベルト、武満 徹、ストラヴィンスキー

第37回演奏会(1999年4月4日、5日、7日に岡山シンフォニーホールで館外公演):  
フルート協奏曲 第1番 ト長調 K.313(285c)(独奏:工藤重典)、ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.191(186e)(独奏:ダーク・イェンセン)、シューベルト/ヴェーベルン、R.シュトラウス

第41回定期演奏会(2000年6月18日、20日、19日に久慈市のアンバーホールで館外公演):  
シュニトケ、プロコフィエフ、ベートーヴェン

第2回欧州公演および第45回定期演奏会(2001年3月1日～7日、3月11日、12日):  
ベートーヴェン、武満 徹、ラヴェル、プロコフィエフ

第50回定期演奏会  
(2002年6月26日、27日、25日に大分県立総合文化センターグランシアタで館外公演):  
オーボエ協奏曲 八長調 K.314(285d)(独奏:宮本文昭) 平 義久、ハイドン

つまり、第17回以降9回の演奏会でモーツァルトを含むプログラムは4回、取り上げられた作品は計5曲(アンコールとしては、第1回欧州公演&第33回定期演奏会の コントラダンスを伴う2つのメヌエットより第1番 へ長調 K.463(448c)、また第41回定期演奏会での フィガロの結婚 序曲などがあります)。もちろん少なくはありませんが、何度か顔を出しているラヴェル、ベートーヴェン、ストラヴィンスキー、シューベルトといった作曲家らと比べて、さほど突出しているわけでもありません。

それが、最近3回の演奏会すべてにモーツァルトが登場、そればかりか演奏された10曲のうち9曲までがモーツァルトなので、小澤&MCOの照準ははっきりとモーツァルトに当てられている、と言ってさしつかえないでしょう。そこには、大オーケストラと違う、MCOという比較的小編成による精密なアンサンブルこそがモーツァルトの音楽に適している、という確信があるように感じられます。さらに、小編成でありながらも大編成のオーケストラにならひけをとらないMCOの交響的なスケール感と豊かな響きが、マエストロの考える現代のモーツァルト像の理想に近づくための限りの可能性を秘めている、ということもあるかもしれません。マエストロは、MCOのアイデンティティの「核」のひとつを、モーツァルトによって作り上げるといってはっきりとした方向性を定め、力を注

ぎ始めているのではないのでしょうか。今後小澤&MCOの演奏会レパートリーはモーツァルトを中心とし、演奏されるすべてのモーツァルト作品が録音され、その中から選りすぐった演奏が、CD化されていく予定です。小澤&MCOのモーツァルトには、今後も要注目です!

#### 各曲に注目

今回演奏される3曲について、ざっと触れておきましょう。まず冒頭の イドメネオ 序曲ですが、ギリシャ神話に題材をとったこのオペラはきわめてドラマティックで起伏に富んだ音楽に満ち、その後続くモーツァルトの傑作オペラの幕開けを告げる意欲作です。序曲も、オペラの内容を凝縮したかのように実に劇的。オーケストレーションがカラフルで、MCOの管楽器パートが大活躍してくれるでしょう。これはMCOが初めて取り上げる曲目です。

続いてはぐっと渋い味わいの 協奏交響曲 変ホ長調 K.364(320d)。もしモーツァルトが「天才児」から「偉大な成熟した音楽家」に変身を遂げたターニング・ポイントの曲を挙げよ、とアンケートが出されたら、この曲などかなり上位に来るような気がします。ヴァイオリンとヴィオラを独奏に仕立てたこの作品は、MCOの弦の名手たちが引き立つ大事なレパートリー。第2回定期演奏会(1990年4月18日、19日、独奏は宗 倫匡、今

井信子)および第35回定期演奏会(1998年11月7日、8日、独奏は沼田園子、モーリン・ガラガー)で取り上げられています。いずれも指揮者なしのプログラムで、今回のように指揮者のもとでこの曲が演奏されるのはMCO史上はじめて。独奏は川崎洋介(ヴァイオリン)と店村真積(ヴィオラ)という、若手とヴェテランの新鮮な組み合わせ。3回登場したこの曲の独奏者がひとりもダブらない、というのもMCOならではの豪華さです。

そして最後に、前述したように2度目の登場となる 交響曲 第36番 八長調 K.425『リンツ』。機会音楽としての性格を残した前作 ハフナー に対し、この リンツ は重さと賞禄十分、いよいよ後期の交響曲への扉が開かれるのだなあ、と聴くたびに感じます。13年ぶりの再登場となりますが、マエストロ小澤とMCOがその間に刻んだ年輪が、きつとっさうこの曲を味わい深く、かつスケール豊かに響かせてくれるに違いありません。ちなみに小澤&MCOが取り上げたモーツァルトのいわゆる「後期六大交響曲」は ハフナー リンツ 第39番 第40番 の4曲。あとは ブラハ と ジュピター が残っていますが、これは今後の楽しみ、ということで…。ちなみにこれら2曲は、ブラハ がピノック(第40回定期演奏会、1999年11月20日、21日)、ジュピター がバルシャイ(第20回定期演奏会、1994年11月19日、20日)、およびピノック(第48回定期演奏会、2001年11月24日、25日)の指揮によって演奏されています。

#### 子供たちのために

vivo10&11月号でお伝えしたように、第58回定期演奏会の期間中の7月8日に、小澤征爾とMCOは茨城県武道館を会場に「子供のための音楽会」を開催し、水戸市内の小中学生約3,000人が鑑賞しました。そのとき、子供たちの集中力の高さに感銘したマエストロは「またやりたい」とコメントを残しましたが、さっそく「再演」が実現します。12月4日(土)、ふたたび茨城県武道館を舞台に、市内小学校5年生を主な対象とした「子供のための音楽会」第2弾が実施されます(一般の入場はありません。ご了承ください)。マエストロは今後もこの催しを続けていく考え。自分たちの演奏に出会うことによって、ひとりでも多くの子供たちに音楽のすばらしさを体験・実感してほしい。マエストロとMCOは、水戸の子供たちに「未来」を託します。

《矢澤》



クリスマス・コンサート  
2003より  
(キャロルの祭典)

## 奇蹟のように美しい音楽を、聖夜に捧げます 12 / 23(木・祝)クリスマス・プレゼント・コンサート2004

人類が、祈りと希望の心を抱きながら、今日に至る歩みのなかで、作り出してきた美しい音楽の数々。そうした奇蹟とも呼べる名曲を、聖なる夜に捧げます。ナビゲーターは、お馴染みの畑中良輔が務めます。恒例のプレゼント抽選会もお楽しみに!!

### 天賦の才がもたらした音楽

その音楽は軽やかで、天にも届きそうな翼を持っている 神に祝福されたかのごとき才能を授かったモーツァルトの2作品で演奏会は幕を開けます。出演は、小泉恵子さん(ソプラノ)、宗方律さん(フルート)、田中直子さん(ピアノ)。小泉恵子さんは、1990年の水戸芸術館「茨城の名手・名歌手たち 第1回」出演、および、第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位という実績を皮切りに、わが国の音楽界に確固たる地歩を固めてきている、茨城出身の名ソプラノです。最初に演奏されるのは、きらきら星変奏曲です。日本ではきらきら星 という名の童謡として広く知られている旋律が、さまざまに変奏されていく作品です。オリジナルはピアノ曲ですが、今回はソプラノとフルートとピアノのための編曲版をお聴きいただけます。2曲目はモテット エクスルターテ・イウビラテ(喜び躍れ、喜びの声をあげよ)より「アレルヤ」。この作品は、声を独奏楽器のように扱おうとした音楽協奏曲の性格をもっているといわれています。今回は、曲のクライマックスとして「アレルヤ」の歌詞で華麗に歌われる第3曲が取り上げられます。

### 精霊たちに導かれた、美しいメロディーの数々

続くステージは、昨年大きな話題を呼んだベルクの歌劇 ルル(二期会日生劇場公演)にアルヴァ役として出演するなど、円熟した深く澄んだ歌声を聴かせてくれる、わが国が誇るテノール歌手の藤川泰章さんが登場します。演奏されるのはヘンデル:メサイア より「もろもろの谷は高くせられ」、フランク:天使のパン、ビゼー:アニユス・デイ、オー・ホーリー・ナイト の4作品。メサイア は、ヘンデルのオラトリオの中ばかりか、古今のあらゆる宗教作品の中でも特にひろく親しまれている作品です。キリストその人をテーマとして扱い、キリスト教信仰の本質が尊厳と気品をもって表現さ

れたジェネズのテキストと、ヘンデルの天才的な音楽表現が手を結んだ傑作です。アニユス・デイ の旋律は、ビゼーが生み出した心打つ名旋律のひとつに数え上げられるもので、戯曲「アルルの女」の劇付随音楽のなかの間奏曲から転用された作品です。天使のパン も、フランクの音楽曲のなかでは最も愛されている作品のひとつ。「天使のパンは人のパンとなれり……」という歌詞をもち、ミサの聖体拝領の部分で歌われることを意図して作曲されています。オー・ホーリー・ナイト は皆さんご存知の通り、クリスマス・ソングの大定番!これらお馴染みの名旋律を藤川さんがどのように歌い上げるのか?どうぞお楽しみに。

### 茨城出身の名器演奏者たち

水戸芸術館のクリスマス・コンサートは、水戸をはじめ茨城各地で活躍する、すばらしい音楽家たちが集う場でもあります。

メシアンのパiano作品の最高峰 幼子イエスを注ぐ20のまなざし を一昨年から継続して毎年2曲ずつ演奏していただいているのが、水戸出身のピアニストで、「茨城の名手・名歌手たち 第1回」(90年)以来、水戸芸術館の数々のステージにご登場いただいている中村佳代さんです。11月27日(土)には、姉の真由美さんと共に、デュオ・リサイタルも開催予定です(詳細は4ページをご覧ください)。ところで、幼子イエス... といえば、本年10月16日に行なったロジェ・ムラロのリサイタルで、最初の10曲が演奏されました。ムラロの演奏をお聴きになって、この作品の激しくも神秘的な世界に魅入られた方もきっといらっしやるのでは?今回中村佳代さんは、ムラロが演奏しなかった残りの10曲から 16. 預言者たち、羊飼いたちと占星術の学者たちのまなざし と 17. 沈黙のまなざし を取り上げます。

ヴァイオリニストの加藤直子さんは、「茨城の名手・名歌手たち 第7、9回」(96年、98年)に出演、2002年には水戸芸術館でデビュー・リサイタルを開催した若き才能の持ち主です。今回は、20世紀前半のヴァイオリン界の王座に君臨し続けてきたクライスラーの3作品が演奏されます。愛の喜び は、クライスラー作品中でももっとも愛好されている曲のひとつで、ウィーンの民謡を使ったワ

ルツ風の作品。愛の悲しみ は、愛の喜び と対をなし、やはりウィーン民謡を用いたワルツ作品で、こちらはメランコリックな情趣をもっています。中国の太鼓 は、中国の太鼓のリズムがピアノの伴奏部に登場するエキゾチックな作品です。

そして、お待ちせしました!今年も、「わが故郷の歌」とも呼べる、日本人の心の音楽が登場します。曲は奥村一が日本各地の民謡を題材にピアノ独奏曲として書いた「日本民謡曲集」より こきりこ と おてもやん です。こきりこ は富山地方の民謡で、ロシアの往年のピアニスト・チェルカスキーも愛奏した作品です。一方、おてもやん は、熊本地方の民謡で、一緒に歌ってしまいたくなる愛らしいあの旋律は、皆さんもご存知のとおりです。演奏は、ピアニストの山口泉恵さんです。山口さんは、「茨城の名手・名歌手たち 第1回」(90年)に出演、2005年には水戸芸術館でソロ・リサイタルも予定しているなど、精力的に演奏活動を続けているピアニストです。

### 未来を担う若者たちの感動のステージ

演奏会の掉尾を飾るのが、プリテンの キャロルの祭典。グレゴリオ聖歌が最初と最後に置かれ、中間部にハーブの独奏が挿入された、全11曲から成る連作合唱曲です。タイトルからもお分かりの通り、キャロルつまりクリスマスにキリスト降誕を祝うセレモニーのために書かれた作品です。合唱を務めるのは、全日本合唱コンクール全国大会の常連校として名を馳せる水戸の女声合唱の名門・水戸第二高等学校コーラス部とその卒業生たち。そして、合唱指揮の第一人者として活躍する北村協一さんが、彼女たちの清楚な歌声を紡ぎ上げます。また、ソプラノの小泉恵子さんとメゾ・ソプラノの山本彩子さんがソリストとして登場します。山本彩子さんは、水戸芸術館の「茨城の名手・名歌手たち 第10回」(99年)などに出演、現在はモスクワ音楽院にて学ぶ期待の新星です。さらに、クリスマス・コンサートではすっかりお馴染みとなった千田悦子さんがハーブを演奏します。未来を担う若者たちが、祈りとともに心をこめて歌声を重ねる、感動のステージをお贈りします。

《中村》



水戸の街に響け! 300人の 第九  
(2003年の公演から)

## 延期公演開催のお知らせ 11 / 27(土)中村真由美・中村佳代ピアノ・デュオ・リサイタル

10月9日(土)に予定しておりました「中村真由美・中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル」は、台風22号の関東地方接近に伴い、やむなく開催を延期させていただくことになりました。公演を楽しみにしていらっしゃった皆様には、たいへんご迷惑をおかけしました。当日、中村真由美さんと佳代さんは、暴風雨にもかかわらずご来場いただいたお客

様に申し訳ないと、予定されていたプログラムを抜粋で演奏し、ステージ上で「さらに練習を重ねて、よりよいコンサートにしたい」と、延期となる無念さ乗り越え、新たな決意を語ってくれました。

さて、その延期公演を11月27日(土) 15:30 開場・16:00 開演)に開催いたします。プログラムは、当初の予定から変更はなく、ブラームス: ハ

イドンの主題による変奏曲 変口長調 作品56b、アレンスキー 組曲 第4番 作品62、ラヴェル: スペイン狂詩曲、ラフマニノフ: 交響的舞曲 作品45 の4曲です。チケットは2,500円(全席自由)で、水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターもしくはチケット予約センター(029-231-8000)にて発売しております。 《中村》

## アートタワーみとスターライトファンタジー 12 / 11(土) 12(日)第9回 クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸の冬の風物として、もはや欠かすことのできない存在となったのが、水戸芸術館や水戸駅をライトアップする「アートタワーみとスターライトファンタジー」のイルミネーションです。今年も同イベントの一環として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」をACM劇場にて開催します。各団体に一層充実した発表をしていただこうと、今回は2日間にわたり実施します。18校、22団体が出演予定で、金管合奏や吹奏楽をはじめ、合唱、器楽合奏、

ハンドベルなどの演奏が行われます。12日の午後の部では、第一中、石川中、常澄中の吹奏楽部、総勢89名の合同演奏も予定されています。また、ゲストに茨城交響楽団のメンバーの方々をお招きし、さまざまな編成による室内楽の演奏も行なわれます。入場無料です。どうぞ、お気軽に足をお運びください。 《中村》

### 【参加校】

12月11日(土) 午前の部 新荘小(ハンドベル) 千波中(ハンドベル・歌) 千波中(吹奏楽)

千波小(吹奏楽) 双葉台小(金管合奏)  
[午後の部] 五軒小(合唱) 五軒小(吹奏楽) 堀原小(金管合奏) 渡里小(金管合奏) 吉沢小(金管合奏) 第四中(吹奏楽)  
12月12日(日) 午前の部 柳河小(器楽合奏) 第二中(吹奏楽) 見川中(吹奏楽) 酒門小(金管合奏) 笠原小(金管合奏)  
[午後の部] 石川中(ハンドベル) 第一中(合唱) 常磐小(吹奏楽) 石川中(吹奏楽) 第一中(吹奏楽) 常澄中(吹奏楽)

## 師走の水戸の風物詩となった、300人の大合唱による 第九 12 / 19(日)水戸の街に響け! 300人の 第九

日本の年末の風物詩といえばベートーヴェンの第九 1999年、2000年、そして2003年に引き続き、今回で4回目の開催となる「水戸の街に響け!300人の 第九」は、師走の水戸の風物詩としても、市民の皆様の中に定着した感があります。

ドイツの作曲家ベートーヴェン(1770~1827)が残した最後の交響曲となる 第九 は、終楽章に独唱と合唱が加わるのがユニークで、1年の最後を大人数で高揚した気分で締めくくるにふさわしい壮大さを持っています。

一方で、この音楽が持つメッセージ性にも注目しなければなりません。今年1年には、相次いだ大型台風や新潟での大地震により目を覆うような災害が起こり、長引くイラクでの紛争では依然として多くの犠牲者が出るなど、数々の痛ましいことが起こりました。当事者でなくとも、新聞やテレビ

でニュースに接するたびに、暗澹たる気持ちになります。こうした時代に、音楽は人々の心を勇気付ける力を持っていると信じて止みませんが、ベートーヴェンの 第九 は、その最も力強い音楽のひとつに数えられるでしょう。“喜びにみちた調べとともに声を合わせよう” 抱き合え、幾百万の人びとよ”と呼びかけるシラーの頌歌「歓喜に寄す」をテキストに、 第九 は人類の理想的なあり方を高らかに歌い上げるのです。

そのメッセージをお客様に伝えるために、水戸市民を中心とした老若男女300人以上からなる大合唱団は、指揮を務める鈴木良朝さんを中心に、9月から練習に励んでいます。経験を問わず広く一般の方々に参加を呼びかけ、7月末日で応募を締め切ったところ、昨年を上回る多数のご応募をいただきました。その一般公募の方々に、茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟の方々の力強いサポ

ートが加わります。サラリーマンや主婦、音楽好きの高校生、定年後のご夫婦など、様々な人たちが参加者に名を連ねるわれわれの合唱団は、ブロの合唱団とは一味違い、その参加者層の厚みももたらす歌声の奥深さと充実感で、ベートーヴェンの力強く崇高な音楽に立ち向かいます。

独唱には、「茨城の名手・名歌手たち」出身者を中心に、結城滋子(ソプラノ)、小林由佳(アルト)、小貫岩夫(テノール)、清水良一(バリトン)といった実力派歌手たちが出演。またオーケストラ・パートは2台のエレクトーン(小林由佳、武元彩子)、2台のピアノ(中村真由美、中村佳代/ヴァーグナー編曲によるピアノ版を演奏)、ティンパニ(尾花章子)が務めます。300人の大合唱に拮抗し、ともに音楽を盛り上げる独唱と器楽にも、どうぞご注目ください。

《関根》

## 最近の公演から

SEPTEMBER  
OCTOBER



1



2



3



4



5



6



7

村治佳織ギター・リサイタル(9月5日)

間宮芳生企画運営委員の推薦により実現した、村治佳織のリサイタル。多くのお問い合わせをいただき、チケットは早々に完売。その人気ぶりと注目度の高さをうかがわせた。プログラムは、テオドラキス エピタフィオス、タレガ ベニスの謝肉祭による変奏曲、武満徹編曲のピートルズ・ナンバーなど、最新アルバムからの選曲が中心だったが、水戸芸術館のみの曲目として、間宮芳生 三つの聖詞 の第2章が加えられた。4度の重音の中から立ちのぼる呪術的な音空間の中で、村治さんは間宮氏の評するとおり、まさに「音楽の巫女」となって聖なる言葉をつむいでいた。作曲した間宮氏もその演奏に大きな感銘を受けた様子で、演奏後のトークでは「今度は第2章だけでなく全曲演奏して欲しい」と村治さんにリクエストしていた。これほど完成度の高い演奏を20代半ばにして成し遂げてしまった村治さんだが、聞くところによると来以降も様々な刺激的なプロジェクトが予定されているらしい。今後の活躍にますます目が離せない。アンコールは、武満徹 すべては薄明のなかで 第4楽章、ノイマン 愛のワルツ。《関根》アンケートから とても心地よく、素敵なひと時を過ごさせていただきました。(水戸市:T.K.さん) 心の底から泉のように「うた」が湧いてくるようで、とても癒されました。CDではなかなか再現できない響きを感じられました。武満さんのギター編曲の響きや音色がとても新鮮でした。(水戸市:S.E.さん) 音響が良く、ギターの演奏に適しているホールだと思った。アーティストとの距離が近いのも良い。演奏曲目は最新アルバムからの曲が中心で、楽しめた。間宮さんの曲もおもしろかった。(西東京市:T.K.さん) アットホームな雰囲気よかった。出演者の高度なテクニックに感心した。(ひたちなか市:M.N.さん)

五十嵐美香 マリンバ&パーカッション・リサイタル(9月11日)

水戸出身のパーカッショニスト、五十嵐美香によるリサイタル。五十嵐は、本リサイタルのサブタイトルを「生命と心の旅」と名付けている。今回演奏された安倍圭子のマリンバ作品は 森の会話 I や 山をわたる風の詩 といった標題をもつ。これらの作品は森や山の中の樹木を、生命の象徴として扱っているのかもしれない。そして、樹木はマリンバという楽器に姿を変え、その声を私たちに届けてくれる。五十嵐の情趣溢れるマリンバの演奏は、そうしたイメージを私たちに与えてくれるものだった。一方、北爪道夫作品や三木稔作品で披露されたのが、トム・トム、コ

ンガ、バス・ドラム、タイ・ゴング、木鐘などが中心の打楽器作品で、まさに魂の高揚を物語る祝祭空間が、エネルギー溢る演奏により創出された。共演は阿部剛、黒岩恵美、窪田翔。アンコールはジョブリン ジ・エンターテイナー。中村 アンケートから 五十嵐さんの演奏とてもすてきでした。1曲目の 森の会話 が独創的でした。良かったです。(伊奈町:S.E.さん) 小学校の金管バンドでパーカッションを担当している娘と来ました。バンド内では脇役っぽいパーカッションが、すばらしい主役になっている事に感動しました。山をわたる風の詩 では鳥肌がたちました!!(内原町:M.S.さん) マリンバ演奏を聴くのは初めてですが、その音色の深さに感動しました。(ひたちなか市:K.T.さん)

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第4期①  
(9月12日)

「戦後の歌曲」と題した今年度の3回をもって、いよいよ締めくくりとなる当セミナー。その第1回となった9月12日のセミナーでは、清水脩の歌曲集 抒情小曲集、高田三郎の歌曲集 ひとりの対話、柴田南雄の歌曲集 優しき歌 にスポットが当てられ、密度の高いレッスンが行われた。清水脩 春の寺 (抒情小曲集 第1曲)での絢爛たる色彩の世界から、高田三郎 いのち (ひとりの対話 第1曲)での切り詰められた内的対話まで、同時代の日本歌曲とは言え驚くほど多様なその世界を、畑中良輔氏が丁寧に紐解いていく。氏の言葉を受け、4人の受講生はそれぞれ、より説得力のある、スケールの大きい表現を身に付けていた。ミニ・コンサートには、ゲスト歌手の関定子(ソプラノ)が登場。田中直子の伴奏で、高田三郎の歌曲集 ひとりの対話 (全曲)と清水脩の歌曲集 抒情小曲集 から 春の寺 蛇 を歌い、独特の解釈に基づいた歌唱で聴衆を圧倒した。《関根》アンケートから いつもながら内容の濃いセミナーです。畑中先生の詩を大切に歌い上げていく姿勢により、歌曲の高みへ登ってゆく気がします。受講生もとてもお上手で、しっかり練習してきたのでしよう。(那珂町:H.T.さん) 関さんの歌が素晴らしい。ピアノも素晴らしい。次回も参加したいです。(無記名の方)

北村さゆり ピアノ・リサイタル(9月18日)

牛久市在住のピアニスト、北村さゆりさんの芸術館での初めてのリサイタル。ドイツ、フランスで学んだ北村さんが選んだプログラムは、ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ へ長調 作品10-2とラヴェル:クーブランの墓、そして、シューマン:交響的練習曲 作品13(遺作付)と大曲揃い。いずれ



1



2



3



4



5

も聴き応えのある作品ですが、特に、シューマンの交響的練習曲は、彼の死後に発見された5曲の遺作を加えて演奏され、シューマン作品の持つシンフォニックな拡がりや抒情性がより強調されたのではないのでしょうか。この意欲的なプログラムを堂々と弾きこなした北村さん。華奢な北村さんが、ステージでは大きく見えたことがとても印象的でした。終演後、北村さんは「密度の濃い時間を過ごせた」と仰っていました。アンコールは、ショパン:24の前奏曲 作品28より第15番 変ニ長調 雨だれ と第7番 イ長調。《馬場》アンケートから とてもよかったです。(日立市:M.T.さん) ラヴェルが楽しかったです。(電ヶ崎市:無記名の方)

ミト・デラルコ第7回演奏会(9月25日)  
神戸演奏会(10月2日)  
高山演奏会(10月3日)

ソフィー・ジェントを新メンバーに迎えて2度目の演奏会となる第7回演奏会。今回もハイドンとモーツァルトという2人の作曲家にスポットをあて、かつ2人の創造的交流関係を楽しめるようなプログラムを構成した。ソフィーは前回より一段とアンサンブルに溶け込み、活気あふれる新生ミト・デラルコのキャラクターが確立されてきたように思う。ご来場された方々からの評価の声は、下記のアンケートをご覧ください(水戸芸術館ホームページの「ネットマネット」欄にも、熱い感想が集まっています。こちらをご覧ください)。また、10月2日には神戸学院大学、3日には高

山の飛騨・世界生活文化センター飛騨芸術堂にて館外公演が行なわれ、どちらの演奏会も暖かい拍手につつまれた。両公演とも、熱心な聴き手の方の熱意と努力のおかげで実演した公演。全国のミト・デラルコファンの皆様、あなたの街で公演を実現したいというご希望があればぜひご一報を(もちろんATMアンサンブルも)!なおこの公演もアンコールはハイドン:弦楽四重奏曲ニ短調 作品103の緩徐楽章(ハイドンのほとんど最後の作品)。《矢澤》アンケートから期待通りのコンサートでした。前回、緊張気味だった第2ヴァイオリンが、今回はすっかりメンバーに溶け込み、4人の呼吸がぴったりで気持ちよかったです(ひたちなか市:A.F.さん) Op.77-2の第3楽章の演奏は語り継がれるような名演になったと思う(Uさん) 弦楽四重奏のダイゴ味を感じました。(中略)Gentさんの若くて美人が、(曲調によって)渋面だったり笑ったりと表情豊かなのは楽しかった(水戸市:Mさん) ハイドンのすごさを再認識しました。(那珂町:Y.T.さん)

ハイドンが爽やかな一陣の風だとすると、モーツァルトはその風に乗ってふわふわただよう羽毛のようだ(無記名の方)

#### 訂正

vivo8&9月号ミト・デラルコ記事中、1ページ目でハイドン 雲が行くまで待とう の由来が「第1楽章第1主題が同名のイギリス民謡に似ているところからつけられたもの」とありますが、「第3楽章の主題が同名の～」の誤りでした。お詫びと共に訂正いたします。

1~2.北村さゆりピアノ・リサイタル 3~5.ミト・デラルコ第7回演奏会

### オルガン・プロムナードの小屋

**超・満員御礼!** 1000回記念演奏会;いやあ、エントランスホール、はちきれんかと思いましたが。8月28日(土) 鈴木隆太さんを迎えて行なわれた「パイプオルガン プロムナード・コンサート1000回記念特別演奏会」。どんどんやってくるお客様の数はスタッフ一同の予想を超えて700人以上に達しました。相当数のお客様が立ち見になってしまったにもかかわらず、最後まで皆さん楽しんでくださり、本当にありがとうございました。入場無料とはいえこれだけの方々に囲まれるとは、幸せなオルガンですね! 鈴木さんのプレイはまさにオルガン万華鏡。楽しいお話と共に、ヴィエルヌのオリジナル曲からモリコーネの映画音楽、チック・コリア、白色彗星のテーマまで、オルガンに隠れている引き出しを次々開けて色とりどりの宝物を見せてくれました。夏休みの終わりに寄せる即興演奏 いかがでしたか? 鈴木さんによると、曲調は「夏休みを終えて、さあ仕事に戻るぞ! という高揚感の表明」との

こと。アンコールはSMAP 夜空ノムコウ。これからも未永く芸術館のオルガンを楽しんでください。そんなわけで続いては好評シリーズ **オルガン名曲ライブラリー**のお知らせ。5回目となる今回は「フランス古典音楽」をテーマに、浅井美紀さん(「幼児のためのオルガン見学会」等でも活躍中)がダンドリュー:マニフィカート ト短調、ダカン:異国のノエル、グリニー:オルガン曲集第1巻 ミサ曲 よりティエルス・アン・ターユのレシ、クーブラン: 教区のためのミサ曲 よりグランジュによる奉獻唱、の4曲を演奏します。フランスの古典オルガン曲はティエルスがどうしたとかクロモルヌがこうしたとかなんだか近寄りづらい、という方もいらっしゃるかもしれませんが、実際に聴いてみるとドイツ等とは違う実に色彩的な世界。この機会にぜひたっぷりどうぞ! 11月27日(土) 13:30と15:00の2回(入場無料)です。



\* nettama=ネットワークする猫、タマ。芸術館のコンサートをサカナにいろんなどころへnettamaします。

音楽をマンガで「読む」

水戸芸術館の現代美術ギャラリーで行なわれている楽しい展覧会『まほちゃんち』は、マンガ『女子高生ゴリコ』の作者しまおまほにスポットが当たっているが、それにちなんで(?)今回は当方もマンガ、それも音楽マンガをとりあげてみよう。

そもそも音楽を音抜きで視覚化するのには至難なことだ。たとえば演奏風景を描いた一枚の絵画から、奏でられる音楽をイメージさせるにはたいへんな力量がいるだろう。加えてマンガの物語の中では時間が流れているのだから、音楽という時間芸術が推移してゆくさまを画面で表現する必要もあるわけで、その難しさたるや想像にあまりある。僕はマンガ大好きなのだが「マンガとして面白い」と「画面上で音楽が鳴っている」というふたつの要素が両立した音楽マンガは(あまり詳しくはないけれど)多くはないという気がする。古いところで上條淳士の『T O - Y』最近ではさそうあきらの『神童』あたりが記憶に残るところだろうか?偉大な手塚治虫の未完の遺作『ルードヴィヒ・B』も、音楽よりはベートーヴェンの人生そのものにスポットが当たっていた。

しかし、最近読んだ2つの作品は、前述の作品群よりもいっそう進んだ地点で「音楽を描く」ことに成功している、と思った。しかもマンガとしてメチャクチャ面白い!

クラシック・ファンの多いvivo読者にまずお勧めしたいのが二ノ宮知子の『のためカンタービレ』(講談社KC Kiss、現在10巻まで刊行)だ。これは野田恵(通称のため)という音大生ピアニストがその眠れる才能を目覚めさせてゆくお話。この主人公がカワいのだがとんでもない。一人暮らしの部屋はゴミ捨て場のように汚れ放題、ひとの弁当は平気で盗む。方言を隠すために奇妙な丁寧語をしゃべり、絶え間ない奇行で周囲を混乱に陥れる。ピアノは気が向いたと

きしか弾かないがひとたび曲にのめりこむととてつもない集中力と即興性を発揮する。つまり極めつけの「天然」であり、同時にもしかしたら「天才」なのだ。この「のため」に、彼女の隣室の住人であり彼女が一方向的に熱を上げる指揮者志望の才能あふれる青年・千秋真一、ロック好きのヴァイオリニスト、のため同様千秋に熱を上げる乙女キャラのパーカッション(男子)といった大学の仲間たち、ドイツの名指揮者(だが変人だとてつもない女好き。あだ名はミルヒ・ホルスタイン)等が入り乱れ、混乱と騒動のうちに物語は進んでゆく。『平成酔っ払い研究所』等で、特に人間の愛すべきバカな部分の描写に冴えたとところを見せてきた二ノ宮知子は、ユニークな個性の登場人物たちを実に詳細かついていねいに描き、毎回爆笑せずにはいられない。よくもまあ人間のおかしい部分、妙な部分を次から次へと見つけ出してくるものだ。伏線の張り方やドラマの盛り上げも見事で間違いなく一級品のマンガである。

最初から十分おもしろいけれど、作者のギャグ・テイストとクラシック音楽を描くことが本格的にバランスよくかみ合ってくるのは4巻、長野の「ニナ・ルッツ音楽祭」(もちろん架空の音楽祭)のエピソードあたりからだろうか?この頃になると作者の音楽的知識も充実してきて、その後出てくる曲もドヴォルジャークの第5(!)交響曲、バルトークの組曲作品21、ジョリヴェの打楽器協奏曲(!)エルガーのヴァイオリン・ソナタ、ストラヴィンスキー、ベトルーシュカの3つの断章とどンドンすごくなる。僕は夢中で10巻まで読んでしまった。

問題の演奏シーンだがこれがうまい。マンガには擬音という音を表現するための便利な道具があるのだが、二ノ宮知子はこれをほとんど封印し、かわりにカット割りの見事さで読み手に音を「想像」させる。クラシック演奏の映像を相当研究したと思しきその「カメラワーク」は、特

にオーケストラの演奏シーンで指揮者・総奏・ソロの間を自在に行き来し、読んでいると思わず盛り上がる。実は今回紹介しようと思っていたもうひとつの作品『BECK』(ハロルド作石・講談社KC DXで現在20巻まで刊行中)も、同様に「カメラワーク」の妙で(擬音はけっこう使うけど、イヤミではない)こちらはロックを実にダイナミックに「聴かせ」興奮することこの上ない。クラシックとロック、2つのジャンルのマンガでこのような達成が同時になされているとは、偶然とは言え興味深い(ここではあまり触れないけれど、『BECK』もほんとに盛り上がるよ~)。

そして重要なことは、『のため』におけるクラシック音楽は、日常からかけ離れた神話的な扱いをされておらず、登場人物たちの生と深くリンクした存在であることだ。彼らのその時々喜怒哀楽はさまざまな名曲に託され、逆に名曲を書いた作曲家たちの喜怒哀楽や思索が、登場人物たちにフィードバックする。のためも千秋も、実はそれぞれ子供の頃に受けた心理的な傷を抱えているのだが、名曲たちはしばしばそれを乗り越えるためのハードルの役目を果たし、あるときは解放をもたらすための鍵となる。ひとこと言ってしまうと、ここでのクラシック音楽はどうしようもなく「リアル」な音楽なのだ。そこがすばらしい。登場人物たちの思いが幾重にも錯綜し、ライマックスへと向かっていく、千秋のデビュー公演におけるブラームス 第1交響曲の演奏は、ここまでの「ベスト・パフォーマンス」だろう。そしてのためのベスト・パフォーマンスはまだおそらく先だ。物語は10巻に至りヨーロッパに舞台を移した。登場人物たちがこれからどんな「カンタービレ」を聴かせてくれるのか、楽しみで仕方がない。

BECK



のためカンタービレ



## プチ情報 速 達

MCOメンバーのニュー・アルバム!  
MCOメンバーのヴァイオリニスト2人の新譜が登場しましたのでご案内します。なんと偶然にも同じバッハ!まず久保陽子が録音したのは 無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ BWV1001 ~ 1006全曲(レグリス KBYK - 1002 / 3)。水戸芸術館での録音です。また久保田 巧は 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ BWV1002、1004、1006および無伴

奏フルートのためのパルティータBWV1013のヴァイオリン版を録音(エクストン OVCL001081、2枚組)。すでに録音していた無伴奏ソナタ3曲(OVCK00119)と併せて、これで 無伴奏ソナタとパルティータ 全曲録音が完成しました。どちらも水戸芸術館ミュージアム・ショップ、コントロールポアンで取り扱います!

## information

### チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】火曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

### 訃報:園田高弘氏

日本のピアノ界の重鎮、園田高弘氏が10月7日、76歳で逝去されました。園田高弘氏は水戸芸術館において、1990年3月の開館記念リサイタル、91年3月の開館一周年記念リサイタルをはじめ、水戸室内管弦楽団第15回定期演奏会(93年11月)、ATMアンサンブル第15回、第16回、第17回演奏会(2000年、01年、02年)等で数々の名演を聴かせてくださいました。また、1998年から2000年にかけては「ピアノのための公開セミナー」でも活躍され、厳格かつユーモアあふれる名教師ぶりを発揮されました。堂々たる演奏、そして歯に衣着せぬ辛口の(だがとても暖かい)お言葉の数々の記憶を胸に、園田高弘氏のご冥福を心からお祈りします。

### チケット・インフォメーション 11月27日(土)発売分

現代音楽を楽しもう - 18 須川展也

2/11(金・祝)14:00開演 料金(全席指定):¥3,000

ちょっとお昼にクラシック 4

2/15(火)13:30開演 料金(全席自由):¥1,200(ドリンク付)

この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。  
水戸ソリス室内アンサンブル第4回定期演奏会

3/5(土)18:30開演 料金(全席自由):¥2,500

長須与佳 琵琶・尺八コンサート

3/13(日)16:30開演 料金(全席指定):¥3,500

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会

12/3(金)...完売 12/4(土)...完売 12/5(日)...完売

クリスマス・プレゼント・コンサート 2004

12/23(木・祝) ...中央x、左右・裏

ニュー・イヤー・コンサート 2005

1/5(水) ...中央x、左右・裏

畑中良輔の 日本のおうた セミナー 第4期

1/16(日) ...自由席

三船優子 ピアノ・リサイタル

1/22(土) ...中央、左右・裏

栗コーダーカルテット コンサート

2/6(日) ...自由席

武久源造 オルガン・リサイタル

2/21(月) ...1F、2F

11/7(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な12月のスケジュール

### コンサートホールATM

水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会  
12/3(金)18:30開演、12/4(土)18:30開演、12/5(日)14:00開演  
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000  
水戸の街に響け!300人の《第九》  
12/19(日)12:00開演 / 13:30開演(2回公演) 入場無料  
会場:広場(悪天候の場合、コンサートホールATM)  
クリスマス・プレゼント・コンサート 2004  
12/23(木・祝)17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート  
12/18(土)13:30 / 15:00 12/26(日)12:00 / 13:30  
クリスマス・スペシャル  
12/25(土)13:30 / 15:00 オルガン:高橋博子  
入場無料 演奏は各回20分程度です。  
エントランスで踊ってみる18『kaleidoscope(万華鏡)』  
12/19(日)15:30 / 17:30 入場無料

### ACM劇場

パルコプロデュース『ヒーローマン』  
12/5(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥3,000  
子供たちのクリスマス 入場無料  
聖母幼稚園 12/9(木)午前の部 9:45開演 [午後の部]14:00開演  
五軒・柳河・上大野幼稚園 12/16(木)9:50開演  
愛恩幼稚園 12/21(火)10:30開演  
アートタワーみとスターライトファンタジー 第9回 クリスマス・コンサート 入場無料  
12/11(土)午前の部 10:00開演 [午後の部]13:30開演  
12/12(日)午前の部 10:00開演 [午後の部]14:00開演  
水戸市医師会看護専門学院 クリスマスコンサート2004  
12/17(金)14:00開演 入場無料

### 現代美術センター

「まほちゃんち」  
10/23(土)~1/10(月・祝)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
休館日:月曜日 年末年始12/29(水)~1/3(月)  
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600  
中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な12月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020  
佐川文庫サロンコンサート 潮田益子 ヴァイオリン・リサイタル  
12/25(土)18:00開演

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611  
栗原利佳 ソプラノ・リサイタル 12/3(金)18:30開演  
(問)長谷川 TEL / 029(241)2153

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166  
第27回 日本の歌 声楽演奏会 山村暮鳥生誕120年記念  
12/12(日)14:00開演  
スワングレ・シンガーズ クリスマス・コンサート 12/17(金)18:30開演

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521  
シャントゥール・ド・ミト コンサート2004 テノールの宴  
12/26(日)16:00開演  
(問)町田 TEL / 0299(45)7294

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122  
ひたちなか市芸術祭 ひたちなか市民吹奏楽団第20回定期演奏会  
12/26(日)14:00開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457  
マヌエル・カーノコレクション コンサート 12/19(日)15:00開演

リパホール TEL / 029(852)5881  
和田 仁&和田美紀 ピアノ・デュオ リサイタル 12/12(日)14:00開演

玉里村総合文化センター TEL / 0299(26)9111  
ウィーン・アンサンブル"11"&天羽明恵 クリスマスコンサート  
12/18(土)17:00開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2004年12月発行 第103号  
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]  
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):小林聡子 関根哲也 中崎美智代 中村 晃  
馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)  
DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...  
来年こそはLove&Peaceな一年にしたいですね...